

HOTはっと TOKYU

東急からの
お知らせ

No.421

臨時号

特定都市鉄道整備事業計画期間 終了のお知らせ

「東横線渋谷～横浜間改良工事」のための積み立てを終了します



特定都市鉄道整備積立金制度を利用して 「東横線渋谷～横浜間改良工事」を行いました



東横線キャラクター
のるるん

「東横線渋谷～横浜間改良工事」は、東横線と東京メトロ副都心線との相互直通運転などを目的とした計画です。同工事は、2005年2月10日に特定都市鉄道整備事業計画の認定を受け、鉄道運賃収入の2%を特定都市鉄道整備積立金として積み立ててきました。10年間の積立期間の総額は、認定工事費の15.9%にあたる251億円になる見込みです。この全額を工事費に充当することで、工事を集中的に進めることができました。

主要な工事である渋谷駅～代官山駅間地下化工事①

と、特急・通勤特急・急行停車駅の長編成化工事②は、計画どおりに進行し、2013年3月15日の終電後に渋谷駅～代官山駅間の地下化切替工事を実施し、翌16日から相互直通運転を開始しました。これにより、東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線から東京メトロ副都心線を経て、東武東上線、西武有楽町線・池袋線までがひとつの路線として結ばれ、渋谷駅で乗り換えをせずに横浜方面から新宿・池袋を経由し埼玉西南部へのアクセスが可能になり、広域的な路線間の乗継利便性が大幅に向上しました。



① 渋谷駅～代官山駅間地下化工事

東京メトロ副都心線との相互直通運転に向けて、渋谷駅から代官山駅までの約1.5kmを地下化する工事を行いました。東横線と東京メトロ副都心線との相互直通運転は2013年3月に開始し、現在は、地上部に残った東横線旧渋谷駅と高架橋等の撤去を進めており、2014年度中に完成する予定です。



地下化工事の渋谷駅～代官山駅間

② 長編成化・速達性向上工事

東京メトロ副都心線との相互直通運転を目的として、代官山駅から横浜駅間のうち特急・通勤特急、急行の停車駅を、8両編成対応から10両編成対応の駅ホームに改良するものです。またラッシュ時間帯の上り線の速達性向上を図るため、通過線設備を整備します。

長編成化工事(中目黒駅・学芸大学駅・自由が丘駅・田園調布駅・多摩川駅・武蔵小杉駅・日吉駅・綱島駅・菊名駅・横浜駅・元住吉車庫)は、相互直通運転の開始に伴い、ホーム延伸部分の供用を開始しました。通過線設備を含む祐天寺駅改良工事は、2013年4月に着手し、2016年度に供用を開始する予定です。



補強中の祐天寺駅の高架橋



特定都市鉄道整備事業 計画の終了に関するお知らせ

特々制度の積み立てを終了します

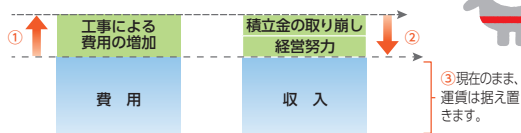
東急電鉄は、特定都市鉄道整備積立金制度（以下、特々制度）を活用し、「東横線渋谷～横浜間改良工事」を進めてきました。東横線と東京メトロ副都心線の相互直通運転などを目的として進め、東横線は、2013年3月の渋谷駅地下化にあわせて副都心線との直通運転を開始しています。

2005年2月10日に特定都市鉄道整備事業計画の認定を受けた同工事では、鉄道運賃の2%を特定都市鉄道整備積立金として積み立て、工事費の約2割を積立金から充当することで、工事を集中的に進めてきました。このたび、特々制度上の事業計画期間が終了する2015年2月9日をもって、この積み立てを終了します。

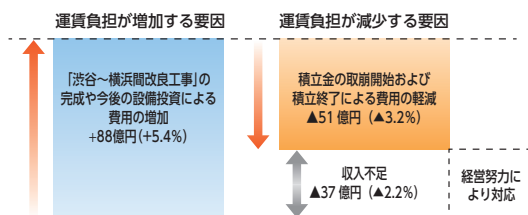
運賃の変更はありません

「東横線渋谷～横浜間改良工事」が完成したことで、メンテナンスや減価償却などの費用が増加します。また、引き続き実施を予定しているホームドア整備など安全・安心のための設備投資によって今後も費用の増加が見込まれますが、積立金を取り崩すことや一層の経営努力によって吸収し、現行の運賃を据え置きます。

■運賃は据え置きます



- ①「渋谷～横浜間改良工事」の完成や、今後の工事によって、費用が増加する見込みです。
②積立金の取り崩しや、経営努力で、収入不足を吸収します。



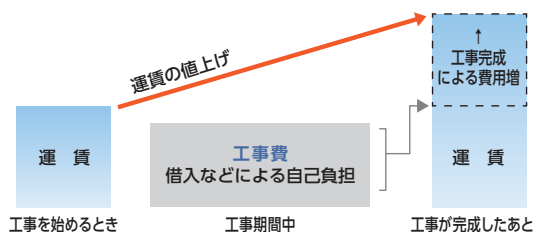
2015～2017年度の鉄軌道部門収支（推定値）の平均値
※カッコ内は収入に対する割合

特定都市鉄道整備積立金制度（特々制度）とは

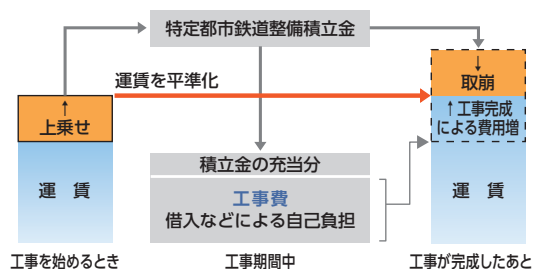
特々制度は、混雑緩和対策のための輸送力増強工事など、大規模改良工事を促進させるための制度です。東急電鉄などの鉄道事業者は国土交通省の認定を受け、10年間の整備事業計画期間に工事費用の一部を積立金としてあらかじめ運賃に上乗せさせていただき、工事費に充当します。これにより、大規模な改良工事を集中的に進めることができます。

工事が完成した後は、設備の増加によってメンテナンスや減価償却などの費用が増加するため、運賃の値上げをお願いする場合がありますが、これまでの積立金を取り崩すことで、運賃の値上げを抑制することができます。

■特々制度を適用しない場合



■特々制度を適用した場合





さらに安全で安心な鉄道の実現

2017年度までの3年間で、931億円を投資します

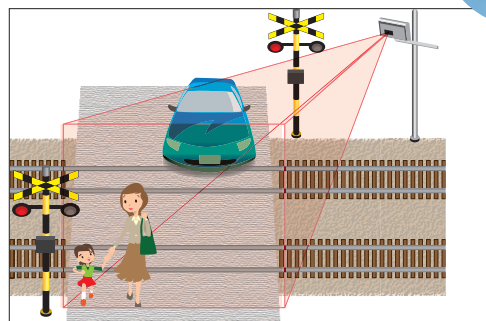
ホームの安全対策

ホームの安全対策として、ホームドアの設置を進めています。これまでの設置計画を大幅に前倒しし、2020年を目標に東横線、田園都市線、大井町線の全64駅に、ホームドアの設置を進めます。これにより、こどもの国線、世田谷線を除く東急線の全駅にホームドア(または、センサー付固定式ホーム柵)が設置されます。



踏切の安全対策

2014年より東急線の踏切135カ所に3D式の踏切障害物検知装置の設置を開始しました。高齢者の渡りのこりなどを検知しやすい装置で、踏切での不慮の事故を防止します。



3D式障害物検知装置のイメージ

災害等のリスクへの対応

倒壊の恐れがある「せん断破壊先行型」の高架橋柱について、2015年度を目標に耐震補強を進めます。今後は、盛土や擁壁などへ耐震補強の検討を進めるほか、コンクリートの剥落などを防止するため、老朽化対策を実施し、構造物の長寿命化を進めていきます。



東急線 ホームドア(または、センサー付固定式ホーム柵)設置状況



誰でも利用しやすい鉄道施設へ

2017年度までの3年間で、529億円を投資します

さらなるバリアフリーの推進

「すべてのお客さまが利用しやすい鉄道」を目指し、バリアフリー設備を増設します。エスカレーターやエレベーターの設置台数を増やすほか、雨の日もホームと電車の乗り降りがしやすいよう、ホーム屋根を延長します。

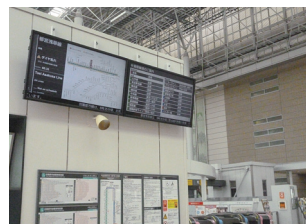


さらなる輸送力増強

混雑緩和対策に引き続き取り組みます。ネットワーク拡大により今後もお客さまの増加が見込まれる東横線、目黒線の輸送力増強に取り組むとともに、大井町線の輸送力増強についても継続的に実施します。

国際化・情報化社会への対応

国家戦略特区の設定やオリンピック・パラリンピックの開催を受け、あらゆる国籍の方が使いやすい東急線を目指します。案内の多言語化や、観光案内所の設置、案内モニター設置などによって、わかりやすい東急線を目指します。





東急電鉄



東急グループお客さまご案内窓口 **東急お客さまセンター**

TEL 03-3477-0109 FAX 03-3477-6109

月～金 8:00～20:00 土日祝 9:30～17:30 (年末年始などを除く)

※東急線各駅へのお電話は、土日祝を除き東急お客さまセンターへ転送されます(上記営業時間内)。

※2月28日(土)は、システムメンテナンスのため臨時休業とさせていただきます。

東急からのお知らせ HOT ほんと TOKYU 臨時号

特定都市鉄道整備事業計画期間終了のお知らせ(通巻421号)

■発行 東京急行電鉄株式会社
TEL 03-3477-6330
月～金 9:30～18:00 (祝日、年末年始などを除く)
URL <http://www.tokyu.co.jp/>

■発行日 2015年1月9日
■デザイン・制作 東京急行電鉄株式会社セラン事務局

※本誌は再生紙を使用しています

